

■ エントリーよりも難しいと言われるイグジットについて

(1) 利確

エントリーやイグジットについては、FX 経験者には釈迦に説法かと思imasuので、これはあくまでも初心者向けということでご覧ください。

決済（イグジット・損切り）のルールを明確にしよう。

FX サインツール「クワトロアルファ」は1分足や5分足でのスキャルピングを対象としたものではありません。

デイトレ、もしくはスイングトレードを念頭にいたったのです。

私であれば「短期デイトレ」。

エントリーしたらすぐに動き出して、5分、10分で終わることが理想です。

獲得目標 pips 数は 20~30 pips。

実際にはなかなかそんなにうまくはいきませんが。

1 利食いの目標としてエンベロップを利用する。

20 pips オーバーで利確という人がいます。

私も常に頭にはそれがあります。

「18 pips でもいいか」という感じです。

30 pips を答えたらくそえみます。

私の場合で恐縮ですが、私は含み益がある程度になると、エンベロップ 0.15 と 0.25 を表示させたチャート画面に切り替えます。

(エントリー時はエンベロップ 0.06 を表示させています。)

そして、利確目標はエンベロープ 0.25 です。

しかし、実際にそこまで行くことは少なく、その手前で利確することがほとんどですが、もし勢いよくエンベロープ 0.25 付近まで来たら、間違いなく利確です。

(ここまできてさらに欲をだすとしたらそれは相当なものですよ)

ふつうはエンベロープ 0.15 でもいいと思います。

あるときはこのエンベロープ 0.15 に届かなくても、勢いが無い、あるいはここが限界だと思えば利確すべきですし、あるときはここをぐ〜んと突き抜けて利確ということもあると思います。

※エンベロープ (Envelopes) は MT4 に標準ではいっていません。

私の設定値は次の通りです。



この「期間 20」と「移動平均の種別 Exponential」は私が用いている移動平均線であって、これは皆さんが普段つかっているものに変更してください。

次の「偏差 0.06」というのは、私がエントリーするときになるべくこの内側（移動平均線に近いところで）と意識しているものであり、上にも書きましたが、エントリー後はこの数字を 0.15 と 0.25 としたチャート画面を表示させています。

次の画像をご覧ください。



これはこの文章を書いている前日のユーロ円5分足チャートです。

黄色い矢印サインがでてから順調に下落しています。

そして、黄色の①でエンベロープ0.25まで来ました。

ここでは確実に利確しましょう。

その後、急激にもどされ、20MAを越えています。

戻されると気分的にいやですね。

「さっきはプラス〇〇pipsあったのに」と思ってしまい、その思いがまたトレードを狂わせます。

この画像でも、その後、2時間くらいヨコヨコが続いてさらに下げているが、それは結果論ですからね。

もしかしたら①を底値にしてそこから上昇に転じるかもしれません。

「利食い千人力」です。

そうしておかないとあとで後悔しますよ。

2 利食いにRSIを利用する

「RSI」はすぐれたインジケータだと思います。

RSI30、70で決済していたら、「利確しそこねた」ということはないと思います。

ろうそく足の伸び方に勢いがあると、つい「もう少し」と思ってしまいがちですが、そこが最安値や最高値になることがよくあります。

上手な人やプロは、一般の人が「もっと！」と思っているときに、反対売買を済ませます。

上の画像では、黄色②で、金色の星印がいくつかついています。

これは「RSI-limit」と名付けていますが、これは会員サイトからダウンロードしてご利用ください。

私はRSI20、80を越えたときに星印が出るようにし、RSI15、85を越えたときに画面の色が次のように変わるように設定しています。



RSI の設定値やこの画面の色などをご自由に変更することが可能です。

パラメーター設定については次の動画をごらんください。

<https://youtu.be/7IpyDvnrZ0A>

■ エントリーよりも難しいと言われるイグジットについて

(2) 損切

エントリーやイグジットについては、FX 経験者には釈迦に説法かと思いますので、これはあくまでも初心者向けということでご覧ください。

含み損に耐えるな！

まず含み損には絶対に耐えないでください。

あっさり損切をしましょう。

株式トレーダーとして有名なテストさんは「やばいなあ」と思ったら、「や」の時点で損切りしていると言っていました。

私は「やばいなあ」の「ば」で損切していたら15万円の損で済んだところを「な」まで耐えたものだから30万円の損失を出したことがあります。

20 pips 程度の損切りだったら、そのあと取り返すのは簡単です。

くれぐれも「耐える」なんてことはしないでくださいね。

では、損切はどうすればいいのか？

仮に20 pips で損切をすると決めていたとします。

そんなとき、往々にしてみられるのが「20 pips に届くまで待つ」という人です。

含み損を最大限膨らませてから損切する必要はありません。

「やばいなあ」と思ったら、「や」の時点で損切りしてくださいよ。

「どんなときに損切りするのか？」と訊かれたら、「自分が思ったような動きをしなかったとき」と答えます。

私は一応25 pipsで自動的にストップロス (SL) ラインが入るように設定していますが、それに引っかかるのは、たいてい所用でPCの前から離れたときや、電話がかかってきてチャートを見ることができなかつたときです。

チャートを見ているのだったらもっと早く損切をします。

これを書いている今日も損切をしました。

3ポジで43 pipsの損切です。

1ポジあたり約15 pipsですね。

ただし、このとき含み損の数字はほとんど見ていません。

チャートが自分の想像していたような動きをしなかつたらその時点で負けだと私は思います。

含み損ってもってていやじゃないですか。(口語体で失礼)

FXは楽しくやりましょう。

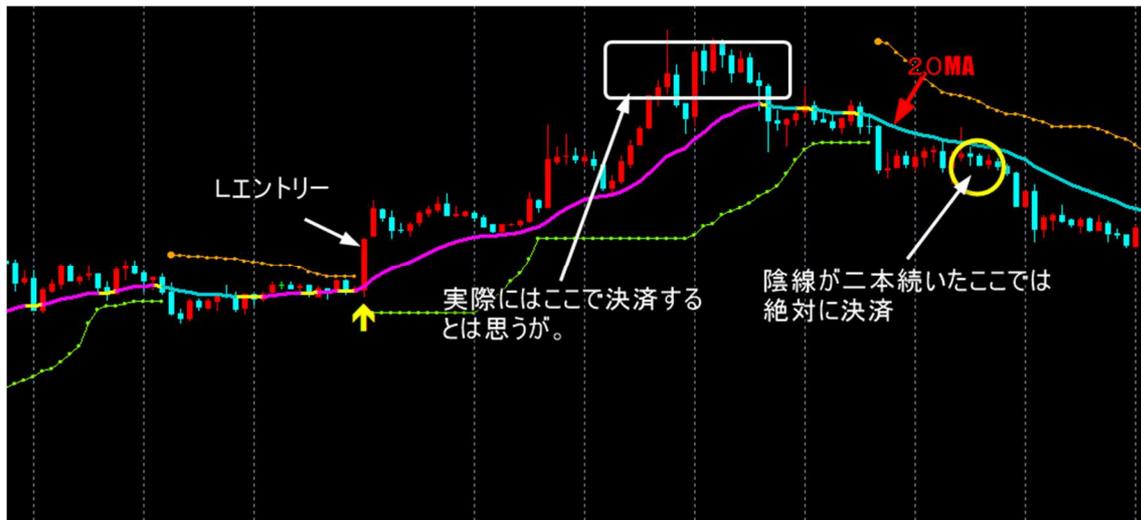
顔を引きつらせ、いやな思いをしながらやるものではありません。

言うことを聞かないやつとはさっさと縁を切ったほうがいいですよ。

私の具体的な損切りの目安

私はEMA20を2本連続して割ったときには損切をするようにしています。

もちろんそこから切り返すこともあるのですが、そこから大きく逆行することも多いので、儲けそこなうことより、大損を回避することのほうを重視します。



20MAを2本連続して割っていたとしても、その足にヒゲがあるようなときはもう1本見ます。

また一つ補足ですが、よほど大きな動きでない限り（損失を許容できる範囲であれば）、ロウソク足が確定するまで待つことをお勧めします。

途中で「ああ、だめだ〜」と思って損切りすると最後の30秒でスーッと戻すことがよくあります。

エントリーしたらS/Lの設定をお忘れなく。

冒頭にも書きましたが、私の場合は、T/Pは120pips、S/Lは25pipsに自動的に設定しています。

そして大切なのは、それだけで終わるのではなく、そのときの通貨ペアの動きに合わせて、直前の安値の少し下（ショートの場合は少し上）に、ロスカットを設定し直すということも場合によっては必要です。

それがたいだい20~25pipsくらいになることが多いので、私の場合は、自動的に25pipsになるように設定しているのですが、上にも書いたように自動的に切られる前に私は自分で切ることがほとんどです。

これはまさに「裁量」であって、ここ最近のトレードでは6 pips で損切りしたこともあれば16 pips で損切りしたこともあります。

損切りラインを動かすと、レートはどこまでも追いかけてきますよ。

そしていよいよ苦しくなって切ったところが底値だったなんてことはよくある話です。

そこで冒頭の言葉にもどりますが、含み損に耐えることは絶対に避け、「やばいなあ」と思ったら「ば」で切るようにしましょう。

「自分が思ったのとは違う」と感じたらすぐに損切りしましょう。

損切りができない人は滅亡あるのみですよ。